

入学式 式辞 要旨

本日、東洋大学附属牛久中学校第9回入学式、高等学校第60回入学式にあたり、一言ご挨拶いたします。

まず、新型コロナウイルス感染予防のため、ご来賓のご出席が叶わなかったことをお詫びいたします。本来であれば多くの方々とともに、皆さんの入学、晴れの姿を祝ってほしかったです。今回は各ご家庭お一人の保護者の方にご参加いただくことはできました。

保護者の皆様のご臨席を賜りましたことは、本校として慶びとするところです。壇上からではございますが、心より厚く御礼申し上げます。

ただ今、担任の先生から氏名を呼ばれました中学校66名、高等学校600名の新入生の皆さん、入学、おめでとうございます。保護者の皆様におかれましてもお子様のご入学、誠におめでとうございます。

私たちは、皆さんの入学を心より歓迎いたします。

本校は、1964（昭和39）年に創立され、間もなく60周年を迎える学校です。本校の母体となります、東洋大学の創立者、井上円了先生の建学の精神として、「諸学の基礎は哲学にあり」、「独立自活」、「知徳兼全」を掲げております。これを基礎に本校の教育目標は、

- 1 知的好奇心と高い志をもち、自ら考え、自ら行動する意欲溢れる生徒の育成
 - 2 深く考える力と本質に迫る健全な批判精神を培い、将来社会に貢献できる人材の育成
- を目指しています。

また、教育方針の3に「魅力ある教育活動を展開し、地域社会に貢献する」として、具体的には、「国際理解教育」、「理数科教育・環境教育」、「中・高・大・地域の連携教育」の推進を掲げ、特に文部科学省「SGH ネットワーク校」の指定と、茨城県教育委員会からの「世界に羽ばたく人材育成推進事業校」の取組みの成果から、グローバル人材育成のための研究開発、及びその実践に力を入れています。

新入生の皆さんには特色ある本校に通学することに誇りと自信を持つとともに、明るく活発な校風に加えて、これから自分たちが新たな伝統を築いていくのだという気持ちをもって、自らの夢の実現に全力を挙げてほしいと思います。

ここ3年、新型コロナウイルスの感染のため様々な社会的な生活が制限されてきました。特に学校での生活では常にマスクの着用や、消毒の他、感染予防のため、リモート授業など、学校行事も様々な制限の中で実施せざるを得なかったことは、生徒の皆さんだけでなく、のびやかな学校生活を送ってもらいたいと願う保護者の皆さんや我々教職員も「仕方がない」と思うものの我慢を強いられてきました。

しかし、感染状況もようやく落ち着きを見せ、この3月からはマスクなしでの生活ができるようになるとともに、4月からは徐々にではありますが、平常の学校生活が戻るようになってきました。まだ油断は禁物です。完全に終息が確認されるまでは、ある程度の注意をしながら、恐る恐る平常の生活を取り戻していくことになるのでしょう。

新型コロナウイルスについては、「終わりの始まり」が見えてきましたが、もう一つの世界的な課題があります。去年の2月末からのロシアによるウクライナへの軍事侵攻については、終わりが見えません。「どこか遠い国の戦争」、「対岸の火事」ではなく、このことによって様々な影響が我々の日常生活に及んでいます。叡智を集めて解決しなければなりません。

新型コロナ・パンデミック、ロシアによるウクライナ侵攻など、今日の社会は良くも悪くもグローバル化、世界の一体化が一層進んでいることを様々な場面で実感させられます。

私が考えるグローバル教育（国際理解・異文化理解）とは、文化の多様性の尊重、外国人等他者への敬意といった、豊かな国際感覚の醸成をすることで、多様性を尊重し、共生社会の中で積極的に社会的役割を果たせる人間を育てることと考えています。

自ら学び、これからのグローバル社会でたくましく生き抜くとともに、自立した社会人として積極的に自分の役割を果たす人間になること。地球規模での課題を解決していくためには、21世紀に生まれ、21世紀の社会を支えていく新入生の皆さんの一人一人の力にかかっています。

中国の春秋戦国時代に活躍した思想家孔子の言葉をまとめた『論語』には、「吾十有五而志於学」（十五歳で学問の道を志した）、そして「三十而立。四十而不惑。」と続きます。

これを私なりに解釈すると、十代半ばは、これから本格的に自分の進みたい道・学問を志すときであり、十代半ばから学問・勉強に力を入れ、三十歳になるまでに様々な努力をして、「三十にして立つ」、この場合は一人前の人間となることを意味しているのだと思います。学問を志してから一人前になるには三十歳になるまでの時間がかかることを自覚してほしいと思います。

中学校に入学した皆さんにとってはやや早いのですが、学問・勉強を志す気概・心構えとしてとらえてほしいと思います。また、高等学校に入学した皆さんは多くは十五歳ですから、まさにこの言葉の通りになります。

今、皆さんは、本校で学問を志す最初の場所に立ったと考えてください。

人間の成長について、中国の古い言葉に、「萬巻の書を読み」「萬里の路を行く」という言葉があります。明治の文人画家である富岡鉄斎が好んで使った言葉とも言われています。

まず、「萬巻の書を読む」たくさんの本を読むことで、知識を得る。しかし、本を読んでいるだけでは、その知識を生かすことはできません。

そのために「萬里の路を行く」さまざまな苦難、困難を乗り越えて、多くの経験を積むためにも、遠くまで旅をする。その体験を通じて「生きる力」を身に付けることです。

本校では、たくさんの本を読んでほしい、そんな願いから「朝の読書の時間」や図書館の充実を図っています。また、様々な体験活動を充実させています。本校の生活でたくさんの本を読んで知識を得るとともに、さまざまな体験的な活動を通じて、より望ましい人間となってもらうことを願っています。

「萬巻の書を読み」「萬里の路を行く」の続きには、「四方の友と交わる」という言葉を加える場合があります。本校の学校生活の中で、たくさんの方友をつくって自分の成長の糧にしてほしいと思います。

萬巻の書を読む 多くの本を読んで様々な知識、知見を得る

萬里の路を行く 遠くまで旅をして様々な体験から生きる力を身に付ける

四方の友と交わる 多くの友人と交流することで自分自身の成長の糧とする

ぜひこのことを胸に抱いて学校生活を送ってほしいと思います。

保護者の皆様、お子様のご入学、改めて誠におめでとうございます。子どもたち自身も、今日のこの日を迎えて、一歩大人に近づいた、成長したということを実感していることと思います。保護者の

皆様には、少しずつ手を離しつつ、なお目は離さず、の適度な距離を保って、見守っていただければありがたく存じます。

子どもたちの健やかな成長のためには、学校・家庭・地域の三者が、それぞれ連携していく必要があります。お子様の学校生活で、ご心配やまたご不安なことがあれば、どうぞ遠慮なくご相談ください。

私どもは、保護者の皆様とともに、子どもたちの豊かな成長を助けていきたいと考えています。そして、6年後、3年後には成長した姿を祝っていただきたいと思えます。

結びに、保護者の皆様、本校の教育に、一層のご理解とご協力を賜りますよう改めてお願いを申し上げます。本校に対する皆様方のご期待に応える教育を進めていくことを、ここにお誓い申し上げて式辞といたします。

2023（令和5）年4月10日
東洋大学附属牛久中学校・高等学校
校長 金澤利明